

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17103

研究課題名(和文) 産業革命期日本紡績業における企業合併・買収の歴史的研究

研究課題名(英文) The historical study of the Merger of the cotton industry in Modern Japan

研究代表者

橋口 勝利 (HASHIGUCHI, KATSUTOSHI)

関西大学・政策創造学部・教授

研究者番号：00454596

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、近代日本の企業合併の起源を歴史的に明らかにしたことにある。近代日本の代表的産業であった綿紡績業は、市場競争の激化や輸出市場の不振などもあって、他産業に先駆けて企業合併が進んだ。この企業合併交渉は、合併企業の経営戦略を反映して一方的に有利な条件で進められたのではなかった。被合併企業もその独自の競争力や出資者の利害意識を反映しながら、優位に展開していたのである。

研究成果の概要(英文)：This project aims to examine the factors of the merger between the cotton-spinning companies in the late Meiji era. The cotton-spinning industry which was the representative industry in Japan, deteriorated because of the depression after the Russo-Japanese War. Then the big spinning companies decided to merge with the local companies in the Chukyo area. The conclusion is that the merger negotiations between the big companies and the local companies were unequal relationship. In addition, the stockholders will of the merged company played an important role in the negotiations.

研究分野：経済史

キーワード：産業革命 合併・買収 ガバナンス

1. 研究開始当初の背景

本研究は、近代日本が、経済的自立を達成する上で重要な役割を演じた、綿紡績業の成長過程を分析することを目的とした。この綿紡績業の成長については、高村直助の研究をはじめとして、大都市における大紡績資本の発展プロセスに焦点を当てていた。その企業設立については、その企業勃興を担う資産家の行動様式についても具体的に分析されてきた。しかし、綿紡績業は大紡績資本主導で進められたという側面だけでなく、中小紡績資本の利害意識をも包摂して進んだことをも含めて検討される必要がある。そこで、本研究は、以上のような近代日本の工業化をめぐる研究史の進展を意識して、全国に先駆けて工業化が進展した地域である愛知県を中心に企業勃興と資産家活動について研究を進めることとした。具体的には、産業革命期に進展した綿紡績業の企業合併を取り上げ、合併企業と被合併企業との激しい条件交渉が存在していただけでなく、企業の意味決定の際には、経営者だけでなく、株主などのステークホルダーの意思が大きく影響していることをも明らかにすることとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代日本経済を牽引してきた綿紡績業を事例に、企業経営におけるコーポレート・ガバナンスの有効性を明らかにすることである。具体的には、1900年頃から日露戦後にかけて活発化した紡績資本の買収・合併に注目する。本研究では、東洋紡、大日本紡、鐘紡の「3大紡」と呼ばれる大紡績資本が、被合併企業の競争力、技術蓄積を吸収することで企業競争の基盤を強化し、高い国際競争力を有する企業へと成長していったことを明らかにする。加えて、資本集中は、大紡績資本だけでなく、被合併企業としての中小紡績資本の利害意識をも含みつつ進行していった。本研究は、この動向を大紡績資本のみならず中小紡績資本にも焦点をあてて検討することで、近代日本紡績業発展要因の新たな一端を解明することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 大紡績資本の史料収集

本研究の対象企業となる3大紡の史料収集、撮影・印刷作業を行った。まず尼崎紡績株式会社の経営一次史料を、設立から大日本紡績設立までの期間を中心に撮影・印刷作業を行った。史料はユニチカ記念館で史料収集作業を終え、さらに、同じく3大紡の一翼を担う東洋紡績株式会社についても、同期間の経営一次史料を閲覧・複写した。最後に鐘紡の史料は、神戸大学経済経営研究所付属資料総合センターで所蔵されており、この史料の撮影・印刷も完了させた。

(2) 業界団体史料収集・分析

分析は、尼崎紡績の設立事情や発展要因を総合的に中心に据えることになるが、とりわけ焦点となるのは、企業合併をめぐる詳細な分析である。つまり、中小紡績との合併交渉、ライバル企業(東洋紡・鐘淵紡)との合併競争、1918年の尼崎紡績と摂津紡績の合併が主たる分析対象となる。以上の個別企業分析を、日本紡績業史へと位置づける作業を行うために、紡績業界団体史料を収集・分析を進めた。具体的には、業界団体資料である『日本紡績協会資料』の分析に加えて、公刊資料や業界団体史資料『日本綿織物工業組合連合会』資料や、『輸出繊維会館』資料、『名古屋商業会議所月報』などの分析を行った。

4. 研究成果

(1) 本研究は、近代日本の紡績業の発展過程を論じるにあたり、主として中京圏(愛知県・三重県など)を舞台に議論を進めた。中京圏は、紡績業・織布業が、いち早く工業化した地域であり、その後も日本屈指の繊維産業の中心地へと発展を遂げたからである。大都市で生まれた紡績資本は、業界屈指の巨大資本へと成長し、地方へと「拡張」していった。本研究は、大都市で誕生し、近代紡績業をけん引していった綿紡績資本が、どのような経営戦略から中京圏へ進出していったのかを明らかにした。その対象となる企業は、鐘淵紡績・三重紡績・日本紡績の3社であった。三重紡績は1914年に大阪紡績と合併して東洋紡績となり、日本紡績は尼崎紡績に合併されたのち大日本紡績へと結実する。つまり、この3社は近代紡績業の主導権を握った「3大紡」にあたる。各紡績資本の経営戦略や規模拡大・合併交渉にはそれぞれ独自の経営戦略が反映されていた。まず東京・神戸を拠点とする鐘淵紡績は、主事業の綿紡績業に加えて、絹糸事業や瓦斯糸事業など多角化を目指して企業合併を推し進めた一方、名古屋を拠点とする三重紡績は経営拡大を図るべ

く企業合併を進めた。そして大阪を拠点とする日本紡績は、瓦斯系事業市場の掌握を図るべく企業合併を進めるという経営戦略をとって、中京圏の中小紡績資本への合併交渉を押し進めたのである。それゆえ、各紡績資本の合併交渉は、条件交渉をめぐって激しい競合関係にあったのであり、決して大規模資本優位で進められたのではなかったのである。

(2) 地域の中小紡績資本の「自立性」を明らかにした。大都市の大紡績資本は、その資金力と競争力とを背景に、地方紡績の合併を進めていった。その際、地方紡績に求められたのは、自社が「独立して経営するか」、あるいは「合併に応じるか」という選択であった。企業勃興期に地方に派生した中小紡績資本は、1900 - 1901年の義和団事件による不況、そして日露戦後恐慌を経て、経営の不安定という事態を迎えた。そのため、大紡績資本の企業合併に応じることが有効な選択肢として浮上ることになった。その際に必要とされたのは、自社にとって有利な合併先を選択し、有利な条件で合併することであった。この合併先の選択および合併条件交渉は、決して大紡績資本に有利な帰結を迎えたのではなく、地方紡績が主体的に交渉して、自社にとって有利な条件を獲得していた。この条件交渉の基盤となっていたのが、企業設立や運営を株主として支えた地方資産家たちであった。本研究は、こうした地方紡績の利害主張を、「対抗」の側面と捉え、株主となった資産家の活躍に着目しつつ明らかにしたのである。

(3) 近代日本では、日露戦後に企業合併が活発化し、その動きは中京圏でも顕著に見られた。企業合併を押し進めた大紡績資本(三重紡績・鐘淵紡績・日本紡績)は、それぞれの企業戦略に基づいて、中京圏の紡績資本に合併交渉に乗り出した。しかし、地方を拠点とする紡績資本が、その合併戦略に応じることが、決して必然化されたものではなかった。むしろ、中小紡績資本が、合併先を模索して合併案件をもちかけ、合併交渉には自社の利害に基づいた条件を提示することで、好条件を獲得するなど主体性を大いに発揮していた。こうした主体性を発揮する上で大きな役割を果たしたのが、資金の出資者として企業経営に関与した株主であった。本研究は、株主が企業ガバナンスに影響を与える歴史的起源を明らかにするものであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

橋口勝利、三重紡績の事業展開と企業合併 - 企業勃興の挫折とその帰趨 -、経済論集、第67巻第4号、2018、359 - 384

橋口勝利、日本紡績の事業展開と企業合併 - 瓦斯系事業と中京圏 -、経済論集、第67巻第3号、2017、215 - 236

橋口勝利、鐘淵紡績株式会社の企業合併戦略と中京圏紡績業 - 救済合併から戦略的合併へ -、経済論集、第67巻第2号、2017、39 - 58

橋口勝利、東洋紡の成立、経済論集、第66巻第1号、2016、1 - 16

[学会発表](計 件)

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋口勝利 (HASHIGUCHI, Katsutoshi)
関西大学・政策創造学部・教授
研究者番号：00454596

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()